指定障害者支援施設
国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局
別府重度障害者センター

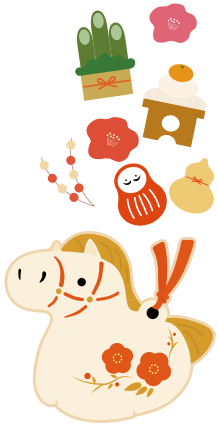
センターだより

Vol.104
発行 令和8年1月

ときめき作品展の鑑賞

目次

●新年を迎えて …… 1
●蛍の答礼、障害者週間記念講演 …… 2
●令和7年度　頚髄損傷者に対するリハビリテーション研修会（実技編）の開催 …… 3
●乗車等介助研修を実施して …… 4
●第30回ときめき作品展 …… 5
●移乗用ボード（トランスファーボード）の紹介 …… 6
●終了した方の今、職員の異動 …… 7～8
●終了者の状況、別府重度障害者センターYouTubeチャンネル …… 裏表紙



頚髄損傷者等の自立を支援します

新年を迎えて

別府重度障害者センター所長　下山　敬寛

新年明けましておめでとうございます。日頃から関係機関、地域の皆さまから温かいご支援やご協力を賜り、心から感謝申し上げます。昨年の夏は記録的な猛暑が続きました。別府重度障害者センターの利用者の方々にとって、日々の体調管理がいっそう求められた夏でもありましたが、熱中症などによる体調不良者をだすことなく無事猛暑の夏を乗り越えることができました。施設の管理者として、本当にホッとしておりますが、昨年の夏が猛暑であったことを忘れるくらい、別府では例年どおり厳しい寒さが続いております。引き続き利用者の体調管理にはしっかりと努めていきたいと思っております。

さて昨年10月に別府重度障害者センターでは、「地域連携推進会議」を開催しました。この「地域連携推進会議」は令和7年度から指定障害者支援施設で開催が義務づけられた会議です。

「地域連携推進会議」は、①利用者と地域との関係づくり　②地域の人への施設や利用者に関する理解の促進　③施設やサービスの透明性・質の確保　④利用者の権利擁護　を主な目的としています。会議当日は利用者とそのご家族、外部の委員の方々に参加して頂きました。主催者側からは「SNSから見たセンターのイベント」「福祉避難所としての備え」「第三者評価の受審結果」「満足度調査・意見箱投書内容」などについてスライドをまじえ報告し、参加者の皆さんからも様々なご意見など頂くことができました。今回頂いたご意見は今後の施設運営に活かしていきたいと思っております。今後とも別府重度障害者センターでは、地域とのつながりを大切にしながら、開かれた施設運営に心がけ、支援サービス向上に努めていきたいと考えております。

それでは皆さま本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

蛍の答礼

支援課　生活支援専門職　濵野　清悟

当センターでは、昭和41年から毎年、竹田市立南部小学校の児童と交流会が行われてきました。元々は児童のみなさんと当センター利用者が交互に訪問しあう行事としていましたが、新型コロナウイルス感染拡大もあり、現在は当センター利用者の代表が年に二回、南部小学校を訪問する形で継続しています。今年も6月5日に「蛍の交歓会」として当センター利用者代表が南部小学校を訪問しました。

この11月12日には、当センターの利用者代表が南部小学校を訪問し、「蛍の答礼」として、社会参加訓練のトールペイントで作成したウェルカムボードなどを、児童のみなさんに手渡しました。また、児童のみなさんに、利用者代表から訓練や社会復帰に向けた意気込みのお話がありました。児童のみなさんからは、素敵な寄せ書きや合唱を頂戴しています。頂いた寄せ書きは、当センターの中央廊下の、利用者が一番目にする場所に貼り出させていただいています。

59年も続くこの大事な交流行事を、今後も工夫して継続していきたいと考えています。

障害者週間記念講演

庶務課　支援管理係　島本　健司

毎年、12月3日から9日までの1週間は「障害者週間」です。取り組みとして、当センター利用者及び職員を対象とした記念講演を開催いたしました。今回は特定非営利活動法人自立支援センターおおいたの五反田法行さんにお越しいただきました。五反田さんは当センターの終了者で、高校時代の部活動で四肢麻痺になられました。講演では、五反田さんの人生についてお話しいただき、「新婚さんいらっしゃい」に出演、子育て、仕事、家庭生活、職場での奥さんとの出会いがスライドとお話に盛り込まれていました。ひとつひとつの話に魅力があり、とても引き込まれました。

講演会の様子

令和7年度 頚髄損傷者に対するリハビリテーション研修会（実技編）の開催

医務課　作業療法士長　阿南　誠二

令和７年12月6日（土）に頚髄損傷者に対するリハビリテーション研修会の実技編が当センターで開催されました。「明日から役立つ頚損リハ技術～部門間連携を交えて～」をテーマに九州県内を中心に、中国・関東地域の病院・施設よりＰＴ１８名・ＯＴ１７名の方々に参加していただきました。理学療法コースでは基礎編として、＜訓練機器について＞＜機能評価（MMT）＞＜移乗動作につながる基本動作訓練＞＜車椅子シーティング＞＜機能別車椅子駆動のポイント＞＜頚髄損傷者の移乗介助方法＞の内容で実技を交えたセミナーを行いました。また、テーマにある部門間連携として運動療法士による車椅子操作指導及び介護福祉士によるリフト使用方法講習に関して理学療法士とともに実技演習を行いました。理学療法コースは実技時間が多く、参加者同士の交流にもつながり、都度多くの質問をいただくことができました。

作業療法コースは応用編で、＜頚髄損傷者の机上ＡＤＬについて＞＜頚髄損傷者の移乗動作＞＜頚髄損傷者の排泄動作・管理＞＜環境調整・自助具、福祉用具のサービス利用等＞の内容で、講習と実技を半々の割合で実施しました。このコースでは部門間連携として看護師による排泄管理及び社会福祉士による日常生活用具給付の制度や他部門との連携に関する取り組みを発信しました。コースを通して対象者を模倣した動作訓練指導などのデモンストレーション、実際の自助具などを手に取っていただくことや対象者を取り巻く職種間の役割をお伝えすることで、頚髄損傷者支援に対する具体的なイメージをもっていただく機会になったかと思います。

全セミナー終了後には座談会/情報交換会としてセミナーの内容を含めた日ごろの課題に対して積極的な意見交換を行うことができました。これにより、医療-福祉における役割の再確認につなげることができ、実践に役立てていただけるのではないかと思います。

当センターでは、昨今「地域病院等との連携支援」として研修会や研修の受け入れ、相談などを組織の事業として開始しました。今回の実技研修会もその取り組みの一環として、参加者に対しての有用な情報発信の一助になり、実践で活用していただける講習会になったのであれば幸いです。

今後も、頚髄損傷者の方々の支援の質の向上につながるよう、地域病院と当センターとの交流を深めていきたいと思います。

乗車等介助研修を実施して

医務課　介護福祉士　荻本　典明

令和７年７月２９日に防災訓練として乗車等介助研修を実施しました。この研修は災害時に当センターの全職員が利用者を安全に移乗介助ができることを目的としています。内容はベッドから車いすへの移乗介助、姿勢崩れへの対応についてです。職員自身も介助を受けることで、介助者と利用者双方の視点から、より良い介助方法について体験を通して学びました。

普段、移乗介助を行うことがない職員にもイメージしてもらいやすくする為に、まずは介護部門で動画の撮影を行いました。動画は介護部門で2年前より取り組んでいる、ノーリフト®ケアを活かして作成しました。２人介助で頭側と足側に分かれ、移乗補助シートを使用した介助方法の動画になります。

「安全で安心な」看護・介護を提供するには、身体の間違った使い方をなくし、対象者の状態に合わせて福祉用具を有効に活用し取り組むことが必要です。福祉用具を使う事が目的ではなく、双方の健康的な生活を保証できるケアを実践することを目的としています。

介護部門では今後も移乗等の外部研修にも参加し、災害時や緊急時に備えていきます。

※ノーリフト® ケアとは介助される側・する側双方において安全で安心な、抱え上げない・持ち上げない・引きずらないケア

研修に参加した職員の感想

〇初めてこのような移乗介助を行ったが、良い経験となった。実践したのでよく分かった。ベッドの右側、左側の立ち位置で微妙に動きが違うので、両方できて良かった。

〇体の使い方が難しく、勉強になることが多かった。普段は介助業務がないため、専門職からの研修はとても勉強になった。

移乗補助シート

シートを使用しての移乗の様子

第３０回ときめき作品展

支援課　生活訓練専門職　水谷　彰

１１月５日から１１月１６日にかけて大分県立美術館１階アトリウムプラザにおいて「第３０回ときめき作品展」が開催されました。今年度も当センターから手織り訓練生３名トールペイント訓練生５名の利用者の作品を出展しています。

昨年度は手織り訓練生の作品が工芸部門で大賞を受賞しており、その影響もあってか今年度の作品は迫力のある大作が目立ちます。

強い意志で逆境にも立ち向かおうとする「百折不撓」、自分自身を奮い立たせるかのような「阿修羅」、自然の美しい風景をテーマにした「夕暮れに映える古都」、ひたすら織り続け“ときめく”瞬間を切り取った「無心になって」、家族への感謝と想いを込めた「暖か帽子とストール」、自分の趣味に活かすために制作した「カメラバッグ」、自分の想いを題材にした「零戦神話」、懐かしい思い出を題材にした「マイホームの海でサーフィン」の８作品。どれも個性に満ちた作品に仕上がっています。

そして、今年度も絵画部門で「百折不撓」が大賞を受賞する結果となりました。２年連続での受賞は当センターでも初めての事です。

開催２日目の１１月６日には、大分県立美術館まで毎年の恒例行事となっている作品展の鑑賞にも行きました。１１月ではありますが当日は陽気な天気で、毎年この鑑賞ツアーの日は天気に恵まれています。今回作品を出展している利用者の方々だけではなく、手工芸訓練を行っていない利用者も参加するなど、年々利用者の作品展への関心も高くなっています。

手工芸の技能を身に付け作品展などにも積極的に参加するといった経験をすることで、今後の自分たちの社会参加に何かしら活かせるきっかけとしてもらえたらと思います。

百折不撓　　阿修羅　　夕暮れに映える古都　　無心になって

暖か帽子とストール　　カメラバック　　零戦神話　　マイホームの海でサーフィン

移乗用ボード（トランスファーボード）の紹介

医務課　理学療法士　髙木　龍

当センターの利用者の目標として、自立して動けるようになりたいということが挙げられており、リハビリテーション等の訓練プログラムを通して、利用者の方々は身体機能と動作能力の向上を目指しています。日常生活で活動量を増やすために必要な動作として移乗動作ができるようになることは重要なことです。しかし、頚髄損傷者の多くは、上肢・下肢の筋力低下や運動・感覚麻痺といった機能障害があるため、移乗動作が困難な方もいます。近年では、移乗動作を補助するための道具として移乗用ボード（トランスファーボード）が複数社から発売されており、当センターでも訓練場面で使用しています。使用方法としては、ベッドと車椅子の間に橋渡しになるように設置し、その上に身体を乗せて座ったままの姿勢で滑らせるようにして移乗します。この方法により、上肢の筋力が不十分でお尻が上がりにくい方でも移乗動作ができるようになります。当センターの利用者が使用した際にも「移乗がスムーズにできた」と良好な使用感を実感されていました。当センターでは、イージーグライド（パラマウントベッド株式会社販売、写真左）とつばさ（株式会社ジェらートアイらんド販売、写真右）を主に使用しており、イージーグライドはサイズが4種類あり体型や移乗場面で使い分けができ、つばさは写真のように車椅子に差し込みやすいという特徴があります。現在の価格は、イージーグライドは27,500～41,800円、つばさは24,000～29,000円であるため、助成の対象となるかお住いの市区町村などに確認してみるのも良いかと思います。

今後も、生活動作を補助する様々な商品が開発されていくと思われますが、商品の機能を理解するとともに、個々人の身体機能と生活環境にあわせて最適な選択肢を提示できるように努めていきたいと思います。

イージーグライド

つばさ

終了した方の今

支援課　主任就労支援専門職　中山　修司

短時間勤務や在宅就労といった求人が増え、当センターの就労移行支援を利用する方も在宅就労を選択する方が増えています。在宅就労のメリットは通勤に伴う負担がなく、ある程度自分のペースで仕事ができることです。一方で、デメリットとしては作業中に一人であるため孤独を感じやすい、モチベーションを保ちにくいといったことが、在宅就労をしている方からの経験談として、よく耳にします。

今回、当センターを終了し、１人暮らしをしながら在宅就労を開始したAさんのご自宅を訪問しました。１人暮らしと在宅就労がほぼ同時にスタートとなったAさんですが、今の生活状況はどんな感じなのでしょうか。お話を伺ってきましたので、ご報告します。

【現在の生活状況】

自宅にて１人暮らしをしている。サービスはヘルパー（身体介助、家事援助）、訪問看護、訪問リハを利用中。勤務時間が平日の８:４５～１７:００であるため、サービスの利用時間もその後（１７:３０以降）や、休日である土曜日にしている。

浴室やトイレは高床となっており、自分のタイミングで入っている。土曜日だけ介助入浴としている。

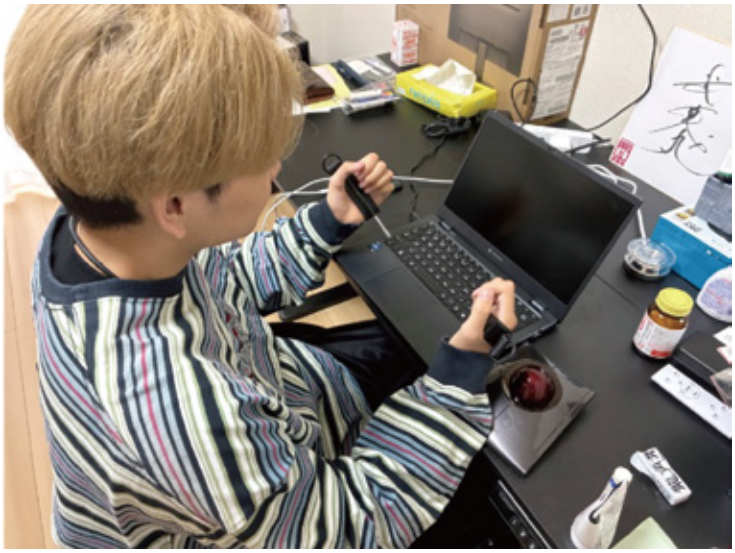
体調管理は基本的に自己管理しているが、最近寒くなってきたためか、おなかの調子が安定していない。訪問看護の看護師さんなどとも相談して様子をみていきたい。

土日は、地元の友人と外出してリフレッシュしている。オンとオフの切り替えがうまくできていると感じており、生活は楽しい。

【就労について】

センター在籍中に面接及びオンラインでの実習を経て、この職場の雰囲気の良さを感じたことが入社の決め手になった。また、面接時の担当者が、話しやすい雰囲気を作ってくれ、自分の障害についての話をじっくり聞いてくれたことがとても印象的で、ここでなら長く働けそうだと思ったこともこの会社を選んだ要因の一つである。

会社からPCとモニターの貸与を受け、会社のソフトを使ってデータ入力などの仕事をしている。自室の一角を作業用スペースとしており、勤務中はそこで作業をしている。作業内容は複



Aさん　作業風景

数あり、都度研修を受けながら行っている。いくつか種類があるため、飽きることがなく、モチベーションを持って作業することができる。体調不良等による直前の休み申請も融通がきき、先輩への相談もしやすく、とても働きやすい職場である。また、勤務時間が短時間ではなく、フルタイムなのも自分に合っていると感じている。

社員や同僚とはオンラインでつながった状態で作業をしているが、そのような中でも仲良くなってプライベートな話をする人もできた。地元の友人とは違った繋がりではあるが、仕事に関する話などもできて、そういった同僚たちと一緒に仕事をすることが楽しいと感じている。

【今後の目標】

まずはしっかり働いてお金を貯めたい。センターの自立訓練在籍時に、自動車運転免許を取得したため、早く自分の自動車を買いたいと思っている。自動車を購入して、行動範囲を広げたい。

また、車いすマラソンも再開したい。センター在籍中は車いすマラソンの大会にも出場していたが、今はまだレーサー車もなく、練習をする余裕もない。もう少し今の生活に慣れてきたら、ゆっくり考えたいと思う。

【センターの支援で良かったこと】

パソコンの技能を学べたことがとても大きかった。また、就労支援が充実していたこと。就労に関する企業説明会や就労案内といった情報がたくさん示されて、選択肢が多かったのはとても良かった。複数の企業への就職活動を通じて、おおよその就職活動の流れが分かったように思う。

受傷して６年の間に、当センターの自立訓練を受け復学、卒業後に自立訓練を再利用し自動車運転免許の取得を行い、その後、当センターの就労移行支援を利用してきたAさんです。この間に何度、当センターと地元を往復したことでしょう。地元で生活したいという気持ちを大切にして、自立訓練時に地元での生活環境を整え、安定した生活リズムで仕事も順調です。また、休日には友人と外出するなど、プライベートも充実している様子が伺えます。

自家用車でセンターに遊びに来られる日もそう遠くないのではないでしょうか。車いすマラソン、また応援できる日を心待ちにしていますよ。

職　員　の　異　動

令和７年１２月１５日付

〇新規採用　　医務課　介護福祉士　　細野　基弘

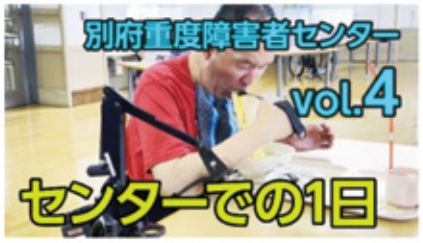
終了者の状況

（令和７年７月１日～令和７年１２月３１日）

復帰形態	家庭復帰	就職	自営・内職	復職	就労移行支援	就労支援施設・能開校	他施設	進学復学	その他	計
人　数	6	1	0	1	0	0	3	0	0	11
比率(%)	55	9	0	9	0	0	27	0	0	100

別府重度障害者センターYouTubeチャンネル

別府重度障害者センターを紹介する動画を公開中です。併せて、令和3年度と6年度にオンデマンドで開催した頚損リハ研修会動画も一部公開しています。ぜひ、ご覧ください！



X（旧Twitter）も行っています。
イベントやお役立ち情報を配信中！

別府重度

別府重度障害者センター公式X

役立つ情報満載！
HPもご覧下さい

別府重度　検索

https://www.rehab.go.jp/beppu/

電話（0977）21－0182（利用相談）　FAX（0977）21－2794

発　行　　別府重度障害者センター